

## 国内ダートトップ種牡馬

# ヘニーヒューズ



2003年生 栗毛 生産／米国産 繋養先／優駿スタリオンステーション  
競走馬時代の主な勝ち鞍／2006年ヴォスバーグS、2006年キングズビショップS

## ヘニーヒューズってどんな馬？

ヘニーヒューズは2歳時から非凡なスピードを武器に05年BCジュベナイルなどGIで2着3回。3歳時の06年キングズビショップSでGIホルダーの仲間入りを果たし、同年ヴォスバーグSでは種牡馬として欧米でGI馬を多数輩出するWar Frontを下してGI・2勝目を挙げた。

米国産馬らしい筋肉質な馬体で、特にトモの筋肉は迫力満点。トモ高でStorm Cat系特有の垂れ気味の背中中のラインも特徴的。現役時代は7F以下で全6勝を挙げたがピュアスプリンターという感じはなく、適度に長さのある各パーツや柔らかい筋肉から中距離までは対応できただろう。16年フェブラリーSを制したモーニンとは1200～1800mと幅広い距離で活躍しており、実力、適性ともにヘニーヒューズの代表産駒といえる。

*ヘネシー 栗毛 1993	Storm Cat 黒鹿毛 1983	Storm Bird	Northern Dancer	Nearctic Natalma	
			South Ocean	New Providence Shining Sun	
		Terlingua	Secretariat	Bold Ruler Somethingroyal	
			Crimson Saint	Crimson Satan Bolero Rose	
				Island Kitty 栗毛 1976	Hawaii
		Ethane	Mehrali Ethyl		
	T.C. Kitten	Tom Cat	Tom Fool Jazz Baby		
		Needlebug	Needles Flynet		
	Meadow Flyer 鹿毛 1989	Meadowlake 栗毛 1983	Hold Your Peace	Speak John	Prince John Nuit de Folies
				Blue Moon	Eight Thirty Blue Grail
Suspicious Native			Raise a Native	Native Dancer Raise You	
			Be Suspicious	Porterhouse Nothirdchance	
Shortley 黒鹿毛 1980		Hagley	Olden Times	Relic Djenne	
			Teo Pepi	Jet Action Sherry L.	
		Short Winded	Harvest Singing	Nasrullah Meadow	
			Wind Cloud	Alquest Psychic Cloud	

芝	ダ	距離		成長	昇級	短縮	延長	多頭	少頭	内枠	外枠
C	A	～1800		早熟	C	A	C	D	B	D	A
直長	直短	急坂	平坦	芝悪	ダ悪	休明	問詰	その他			
C	C	C	C	D	C	D	B	2歳戦：A、冬：A、牡馬：B			



## 馬券のトリセツ① 芝は3歳春まで

ヘニーヒューズ産駒のGI馬はモーニンのに13年朝日杯FS優勝馬アジアエクスプレスがあり、それ以外にもヘニーハウンド(11年ファルコンS)やワイドファラオ(19年ニュージーランドトロフィー、ユニコーンS)と芝の重賞勝ち馬も複数出ている。しかし、勝利数における芝レースの割合は10%を下回っており、お世辞にも芝適性が高いとはいえない。

それでは、なぜ芝重賞の勝ち馬が複数出ているのか。それは早熟気味の成長曲線が助けになっているからだろう。産駒の芝重賞勝ちはずべて3歳春までのもので、アジアエクスプレスとワイドファラオにおいてはその後ダートでも重賞勝ちを挙げている。若駒時は完成度の高さと持ち前のスピードで押し切ってしまうが、他馬が本格化し出すと芝では限界を向かえ、本来得意とするダートで再ブレイクするのがヘニーヒューズ産駒の成功パターン。4歳以上で芝レースに勝ったのはごく僅かで、本質的にはダート血統と断言して間違いない。

また、ダートを主戦場としていることもあって、馬格がありパワーに勝る牡馬の活躍が目立つ。アメリカで輩出したGI・11勝のBeholderは牝馬であったが、日本での重賞勝ち馬は5頭すべてが牡馬。産駒全体の成績でも牡馬が牝馬を圧倒しており、牝馬は準OP勝ちが主な勝ち鞍というのが現状。ヘニーヒューズのパワーとスピードは牡馬でこそ生きるようだ。

## 馬券のトリセツ② 2歳戦

先述の通り、ヘニーヒューズ産駒は早熟性に優れ、とにかく2歳戦に強い。単勝回収率、複勝回収率はともに100%以上と超優秀。馬格に恵まれ、スピードもあるため2歳戦に向く産駒が非常に多い。

ただその反面、成長力が乏しい点はやや残念なところ。日本での重賞全10勝中8勝は3歳以下でのもので、残り2勝もモーニンの根岸SとフェブラリーSなので、これまでの重賞勝ちはずべて4歳春までのものということになる。古馬になってからの急成長は望みづらく、早熟性を活かした早期の活躍に期待したい種牡馬だ。

## 馬券のトリセツ③ 距離短縮&外枠&冬

米国産馬らしい一本調子のスピードが持ち味でペースが上がる距離短縮は得意。単勝回収率143%、複勝回収率100%と超優秀だ。

また、揉まれづらいダートの外枠も得意で、特に8枠の成績は単勝回収率128%、複勝回収率104%とともに100%超。偶数枠が得意という点もあわせて覚えておきたい。

さらに冬場のダート戦に強いのも特徴的。10～3月と4～9月の成績では雲泥の差で、特に1月と12月の厳寒期は単勝回収率221%、複勝回収率108%と超優秀。冬季のヘニーヒューズ産駒には要注意だ。

## 配合のトリセツ① 自己主張型

母Meadow Flyerは父MeadowlakeがBlue Moon≡Nothirdchanceの2×3、自身がEight Thirty≡War Relicの4×5を持ち北米血脈特有のパワーを伝える繁殖牝馬。そこにヘネシーをつけたのが本馬であり、自身はEight Thirty≡War Relicの7×5・6と母のパワー源を継続する形。5代内にクロスを持たないが、北米的なパワーを産駒に強く伝えるのが種牡馬ヘニーヒューズであり、自己主張の強い種牡馬とみていいだろう。

## 配合のトリセツ② Eight Thirty≡War Relic

先述の通り、本馬はEight Thirty≡War Relicの7×5・6の影響を強く受けている。そして、自己主張が強い種牡馬であるため、そこを素直に伸ばしてあげるのが配合としては吉。モーニンとアジアエクスプレスのG1馬2頭その他、ワイドファラオやヘニーハウンドもこれに該当する。さらに名牝Beholderもこのパターンに該当しており、ヘニーヒューズ産駒の最善手であることは間違いなさそうだ。

ちなみにEight Thirty≡War Relicを持つ代表的な種牡馬としてはDeputy Minister(4代母Good ExampleがEight Thirty≡War Relicと相似)、フジキセキ(母母Marston's MillがWar Relic≡Eight Thirtyの4・4×4)、Damascus(父の3代母Speed BoatがWar Relicの全妹)などが挙げられる。

●代表例:モーニン・アジアエクスプレス・ワイドファラオ・ヘニーハウンド



多彩な産駒を出すロベルト系の若

# スクリーンヒーロー



2004年生 栗毛 生産/社台ファーム 繋養先/レックススタッド  
競走馬時代の主な勝ち鞍/2008年ジャパンC、2008年アルゼンチン共和国杯

## スクリーンヒーローってどんな馬？

衰退傾向にあるRoberto系種牡馬。その中でも近年日本で最も成功したのはスクリーンヒーローだろう。現役時代は08年ジャパンCの1勝しかGI勝ちを挙げられなかったが、種牡馬としてはモーリス(16年天皇賞秋などGI・6勝)とゴールドアクター(15年有馬記念)の2頭のGI馬を出し、初年度30万円(受胎条件)だった種付け料は2017年には700万円(同上)まで高騰した。

3代母モデルスポーツのTom Fool⇄Spring Runの3×2、母ランニングヒロインのHalo⇄Red Godの2×4から受け継ぐ軽いスピードが持ち味で、スローペースで先行して直線で再度加速する競馬がベスト。前半1000m61秒8のスローペースをスッと先行して上がり3F2位の末脚で抜け出した08年ジャパンCはまさにスクリーンヒーローのベストパフォーマンスだったといえる。産駒の活躍馬も先行馬ばかりで、重賞勝ちの半分以上が初角3番手以内。父グラスワンダーのパワーよりも母系の軽いスピードを受け継ぐ種牡馬であると覚えておきたい。

*グラスワンダー 栗毛 1995	Silver Hawk 鹿毛 1979	Roberto	Hail to Reason	Turn-to
			Bramalea	Nothrdchance
		Gris Vitesse	Amerigo	Nashua
			Matchiche	Rarelea
	Ameriflora 鹿毛 1989	Danzig	Nearco	Sanlinea
			Mat de Cocagne	Chimere Fabuleuse
		Graceful Touch	Northern Dancer	Nearctic
			Pas de Nom	Natalma
ランニングヒロイン 鹿毛 1993	*サンデーサイレンス 青鹿毛 1986	Halo	Hail to Reason	Turn-to
			Cosmah	Nothrdchance
		Wishing Well	Understanding	Cosmic Bomb
			Mountain Flower	Almahmoud
	ダイナアクトレス 鹿毛 1983	*ノーザンテースト	Northern Dancer	Promised Land
			Lady Victoria	Pretty Ways
		モデルスポーツ	*モデルフル	Montparnasse
			*マジックゴデイス	Edelweiss
				Nearctic
				Natalma
				Victoria Park
				Lady Angela
				Tom Fool
				Model Joy
				Red God
				Like Magic

芝	ダ	距離	成長	昇級	短縮	延長	多頭	少頭	内枠	外枠
B	C	~2600	晩成	B	B	D	C	C	B	C
直長	直短	急坂	平坦	芝悪	ダ悪	休明	間詰	その他		
D	A	C	C	A	C	C	C	牡馬：A		

また、自身の本格化が4歳秋以降だった通り、産駒もやや晩成気味のタイプが多い。配合のトリセツ②のタイプからは2・3歳重賞の好走馬が多く出ているが、それ以外ではゴールドアクターを筆頭に父同様の成長曲線を描く産駒が多い。馬主の意向は加味する必要があるが、本質的にはゆっくり成長過程を楽しみたい種牡馬といえる。



### 馬券のトリセツ① 短い直線

先述の通り、産駒は先行力や機動力が持ち味で直線の短いコースが得意。芝での勝率トップ3は1位中山、2位札幌、3位小倉と直線の短いコースばかりで、東京などの直線の長いコースならスローペースがベターだろう。中山で複数回重賞タイトルを手にしたゴールドアクター(15年有馬記念、16年日経賞、オールカマー)やジェネラーレウーノ(18年京成杯、セントライト記念)などがその典型例だ

### 馬券のトリセツ② 道悪&牡馬

母を立てる種牡馬であり、芝・ダートを問わず、スプリンターから中長距離馬まで多彩な産駒を出す種牡馬スクリーンヒーロー。ただ、産駒に共通する特徴もいくつかある。

最も顕著なのが芝の道悪に強い点。良での複勝率が20.6%であるのに対して、稍重～不良での複勝率は27.1%まで上昇する。また、距離短縮や昇級戦などペースアップにも強い。内枠の成績がいいのも特徴的か。これらはパワーや底力に長けたRoberto的ともいえ、活躍馬が牡馬に偏っている点がそれを最も象徴している。父グラスワンダーほどパワーに偏ったタイプではないが、Roberto系種牡馬らしさは消え切っていないようだ。

### 配合のトリセツ① 多様性種牡馬

HaloやTom Fool的な軽いスピードを受け継ぐ産駒が多いと書いてきたが、距離適性や馬場適性に関しては母馬を尊重するタイプ。Roberto、Danzig、Halo、ノーザンテーストなど主流血統を豊富に持つため、刺激する部分によって様々な産駒が出る。

### 配合のトリセツ② Halo×Red God

Halo×Red Godから軽いスピードを受け継いでいる本馬だが、ここを継続する産駒からは父似の芝馬が多く出ている。グアンチャーレ(15年シンザン記念)やミュゼエイリアン(15年毎日杯)、マイネルグリット(19年小倉2歳S)、クリノガウディー(18年朝日杯FS2着)などがこれに該当。特にHaloを直接クロスした馬の勝ち上がり率は40%と高打率で、前記のグアンチャーレやマイネルグリット、クリノガウディーなどが当てはまる。ただ、サンデーサイレンス経由でのHaloクロスは柔らかさが伝わりすぎるためかあまり効果がないので注意が必要だ。

●代表例:グアンチャーレ・ミュゼエイリアン・クリノガウディー・マイネルグリット

### 配合のトリセツ③ Roberto

Roberto系グラスワンダー産駒の自身だが、Robertoを継続する産駒はダートでの活躍が目立つ。アベレージは高くないが、OP馬プロトコルを筆頭にダート馬が多く、芝での成績は散々だ。Robertoクロス馬のダート替わりには要注意。

●代表例:プロトコル